

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

 TEL 098-868-6895
 FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

利益とは社会貢献の証しでありさらなる社会貢献をする 田坂広志(シンクタンク・ソフィアバンク代表)

1. 日本という国は、世界の資本主義を変えていく起点になると思っています。なぜなら、これから世界の資本主義の根底にある経済原理に、大きなパラダイム転換が起こる。しかし、そのパラダイム転換の結果、求められるようになる「新たな価値観」とは、実は、日本という国が昔から大切にしてきた「懐かしい価値観」でもあるからです。
2. たとえば、いま世界の潮流となっているCSR(企業の社会的責任)。しかし、日本型資本主義の根底には、もともと「世間のために」という思想があります。昔から日本では、「働くとは、傍(はた)を楽(らく)にすることだ」といわれる。それが日本人にとっての労働の意味でした。だから、日本企業においては、誰もが「世のため、人のため」といって一生懸命に働き、そこに働き甲斐を求める文化があったのです。
3. たとえば、かつて松下幸之助が語った言葉。「企業は、本業を通じて社会に貢献する。利益とは、社会に貢献したことの証しである。企業が多くの利益を得たということは、その利益を使ってさらなる社会貢献をせよ、との世の声である」。これらの言葉に象徴されるように、日本型資本主義においては、「利益とは社会貢献をするための手段であり、社会貢献の証しである」との深い思想があったのです

(参考:「Voice」2010年5月号)

幹部への活きた言葉

課長には大局観が必要
佐々木 常夫(東レ経営研究所社長)

1. 課長というのは会社組織の最小単位のリーダーであり、ある特定の使命を持っています。そして、よりよい成果を上げるためには、大局観が必要になります。大局観とは何でしょうか。広い視野を持ったり、高い視点で仕事をとらえるということです。大局観を持つと最終ゴールに早く到達できます。仕事の中で何が幹で何が枝葉かがわかるので、無駄なことをしなくなり、効率的でスピードが上がるのです。
2. 大局観を持つと組織の役割期待、目標がよく見えます。このタイミングでしなくてはならない仕事、少し時間を置いてから着手してもよい仕事などの仕分けができます。仕事をやる際、自分の上司だったらどう考えるだろうか、と思い巡らせることができ、仕事の幅と内容を豊かにし、自分の組織の成長につながります。

(参考:「週刊東洋経済」:2010年2月6日号)

経営者のための危機管理

「まさか」への対応
長島 徹(帝人会長)

1. よく経営には三つの「さか」があるとされます。「上り坂」に「下り坂」そして「まさか」です。人生でも経営でも、できれば「上り坂」をずっと歩み続けたいものですが、それは不可能に近いでしょう。「下り坂」ならまだしも、「まさか」にも幾度かは直面します。常に最悪の事態を想定して、準備に余念なく対応できるのは理想です。それでも想定通りの対応に収まらないから「まさか」なのです。
2. その時、打撃を最小限に抑えるには、まず何を優先すべきかを冷静に考えることです。人材や設備、技術など今すぐ使える経営資源を総動員して、何ができるのかを分析する。ここで大切なのは、考えたことを迅速に行動に移すことです。そして、そのような「まさか」に対応するためには、若いうちから1人で考え、行動に移していく経験を積んだリーダーを多数育てることです。若い人材に積極的に経験の場を与える。今の企業に求められている重要なマネジメントの一つです。

(参考:「日経ビジネス」2010年3月1日号)

古典に学ぶ

人生は妙味津々

「人生というものは、実に妙味津々たるものです。何が面白いといっても、人生ほど面白いものはないでしょう。ところが、同じ人生でありながら、一方にはこれを妙味津々として見る人もあるかと思えば、他方には、これを苦しみ連続と見る人もあるのは何故でしょうか。この人生が苦の世界と見えるのは、まだ自分の“我”に引っ掛かっているからでしょう」

(参考:森 信三「修身教授録抄」:報知出版社)